

価値のある学びの道とは、暗闇を歩くことだと思おう。

私は今まで、ゴールのある勉強しかしたことなかった。

テストに合格や技術習得を身につける、知識を得るためだけの勉強なので、

目指す道やどれだけやればいいのかは、はっきりとわかる勉強である。

学校では、そのはっきりとわかる部分を自分で計画立てて勉強することが「学ぶこと

だ」と考えられた。何か違うような気もしたが、それが「学ぶ」ということなのだろうと

思っていた。

英語の勉強もそのようにあるのだと信じていたために、実際に英語を学ぶのはじめて

して大きな不安に陥った。不安のあまりに、どうしたらいいのかわからなくなり

勉強ができなくなった。でも、「另道に学ぶ」や「英語道を通じて出会うことができた「知

」を読んで、はっきりとわかった。今まで自分が「学ぶ」と信じていた行為は違う

ものであると知ることもできた。「学ぶ」ということは、最初から目指す道や方向

が見えるものではないし、学ぶ内容や量を加減するものではないのであった。

今の自分は、まだ本当に「学ぶ」ということが理解できていないと思おう。

でも、「另道に学ぶ」や「英語道を通じて出会うことができた「知」」を読んで、「学ぶ」という

ことは、今まで自分が考えていたものとは違うものであることも知った。

イングリッシュコースで勉強を続けることで、他にも「学ぶ」ということは、こういうこと

だと知ることもできると思おう。

学生の時に感じていた「何か違うような」という部分を自分なりに発見していきたい

と思おう。

今の段階では学びの道とは暗闇を歩くことだと思えるが、この先の考えが

どう変わるのかを楽しみながら英語の勉強を続けていきたい。